

卒後臨床研修センター

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

センター長（准教授） 新保 昌久（循環器内科）
 副センター長（准教授） 関矢 仁
 （整形外科・リハビリテーションセンター）
 （准教授） 小林 聡幸（精神科）
 （准教授） 細谷 好則（消化器外科）
 （講師） 間藤 尚子（呼吸器内科）
 特別客員教授（教授） アラン・レフォー
 大学病院連携キャリア支援担当
 （准教授） 三瀬 順一
 事務（課長補佐） 大槻 稔 他3名
 初期研修医 104名

2. 特徴（概要）

平成16（2004）年度からの卒後臨床研修必修化に伴い、厚生労働省が示した「基本研修項目」及び「必修項目」を取り入れた研修プログラムを作成し、研修を開始した。

平成21年度の臨床研修制度の改正に伴い、研修プログラムの見直しを図り、既存の基本プログラムに加え、小児科及び産科プログラムを設定した。以降、研修医のニーズに合わせたローテーション管理や初期研修後の対応等に努めている。

また、研修医確保強化策の一環として、全国の医学生を対象にした春季・夏季セミナーを開催、採用後のスキルアップを目的とした各種セミナーの開催、居住環境の整備、指導医の処遇改善などに取り組んでいる。

3. 実績・クリニカルインディケーター

採用年度（平成）	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
募集定員※1	72	55	55	60	60	60	60 (56)	64 (60)	64 (61)	64 (61)	64 (62)
マッチング	47	54	55	60	60	56	43	56	45	49	51
マッチ率（%）	65.3	98.2	100	100	100	93.3	76.8	93.3	73.8	80.3	82.3
採用者総数 本学卒業生（内数）	50 (8)	52 (1)	55 (3)	60 (3)	60 (2)	56 (4)	44 (3)	58 (4)	44 (3)	50 (3)	53 (2)
シニア進級者	33	40	41	43	45	43	32	36	32	-	
シニア進級率 （%）※2	78.6	78.4	78.8	75.4	78.9	84.3	80.0	69.2	78.0	-	

※1 募集定員（ ）は、本学卒業生を除いた数字。

※2 シニア進級率は、本学卒業生を除いて算出。

【研修医出身大学】

秋田大学、岩手医科大学、金沢医科大学、金沢大学、北里大学、岐阜大学、九州大学、杏林大学、久留米大学、群馬大学、高知大学、佐賀大学、札幌医科大学、自

治医大、島根大学、昭和大学、信州大学、聖マリアンナ医科大学、中国医科大学、帝京大学、東海大学、東京医科大学、東京女子医科大学、東京大学、東邦大学、東北大学、獨協医科大学、富山大学、新潟大学、日本医科大学、日本大学、弘前大学、福岡大学、福島県立医科大学、宮崎大学、山形大学、山口大学、山梨大学、和歌山県立医科大学

4. 事業計画・来年の目標

他大学においては自大学出身者に対する引き止め対策が年々強化されるなど、今後ますます研修医の確保については厳しい状況が予想されることを踏まえ、研修医の確保及び幅広い医療知識と技術を有する臨床医の育成のため、引き続き様々な対策を講ずることとする。具体的な事業計画としては、以下のとおりである。

- (1) 研修医のニーズに合わせたローテーション管理及び臨床研修システム（プログラム、病棟診療体制などを含む）の改善を図る。
- (2) 臨床研修管理委員会において、臨床研修に関する意見、要望及び問題点等を把握し、研修内容及び指導體制等の改善に向けての具体的な方策の検討を行う。
- (3) 研修医確保のためのPRの方法（ホームページの充実、募集イベントの積極的な参加等）について引き続き強化を図る。
- (4) 若手医師を中心とした意見交換会を定期的で開催し、研修医のニーズに沿った新たなセミナーの企画・立案及び研修医募集イベントに係る若手目線での意見を取り入れ、現行スタイルを見直し、さらなるグレードアップを図る。
- (5) 5大学連携事業として、将来専門医資格取得を目指す後期研修医・若手研修医等を対象に、先端医療技術開発センターを利用したセミナー開催し、研究開発及び生涯教育を支援し、高度医療人の育成に努める。
- (6) 研修医のメンタル面のきめ細やかなフォローを行いメンタル不調の未然防止に努める。
- (7) 研修修了後の後期研修医として定着率向上のため、現行システムの問題点の把握及び改善を図る。